

# NSG

GROUP

# NSG グループ

## 2022年3月期 通期決算報告

(2021年4月1日～ 2022年3月31日)

2022年5月12日

**森 重樹**

代表執行役社長 兼 CEO

**細沼 宗浩**

代表執行役副社長 兼 COO

**楠瀬 玲子**

執行役常務CFO

# 目次

1. 2022年3月期 通期 決算概要
2. 2023年3月期 業績予想について
3. リバイバル計画24 (RP24) に基づく構造改革施策の進捗
4. サステナビリティの推進
5. まとめ

CFOの楠瀬です。

4ページは本日のご説明内容になります。

まず、2022年3月期 通期決算の概要および2023年3月期の業績予想について私よりご説明し、

その後CEOの森よりリバイバル計画24 (RP24) に基づく構造改革施策の進捗、サステナビリティの推進についてご説明致します。

# 1. 2022年3月期 通期 決算概要

# 連結損益計算書



建築用ガラス事業および高機能ガラス事業の好調により通年で黒字を継続し、売上高、営業利益は  
 通期業績予想を達成。ロシアJV関連について、持分法適用会社への貸付金と投資の減損損失を計上したが、  
 純利益は3期ぶりに黒字転換

(億円)	1-3月期 (3か月)			通期累計 (12か月)			2022年3月期 通期 業績予想
	2021年 3月期	2022年 3月期	差異	2021年 3月期	2022年 3月期	差異	
売上高	1,419	1,576	157	4,992	6,006	1,013	5,900
営業利益	51	55	4	131	200	69	200
営業利益率	3.6%	3.5%	△ 0.1pt	2.6%	3.3%	+0.7pt	3.4%
個別開示項目 (COVID-19関連)	△ 21	-	21	△ 161	-	161	-
COVID-19関連個別開示項目後 営業利益 (△損失)	30	55	25	△ 30	200	230	200
個別開示項目 (その他)	△ 61	△ 7	54	△ 59	36	95	40
個別開示項目後営業利益 (△損失)	△ 31	48	78	△ 89	236	325	240
金融費用 (純額)	△ 35	△ 34	1	△ 110	△ 125	△ 14	△ 130
持分法適用会社に対する 金融債権の減損損失	-	△ 34	△ 34	-	△ 34	△ 34	-
持分法による投資利益	13	19	6	22	75	53	70
持分法投資に関するその他の利益 (△損失)	6	△ 34	△ 40	6	△ 34	△ 40	-
税引前利益 (△損失)	△ 47	△ 36	11	△ 172	119	290	180
当期利益 (△損失)	△ 28	△ 38	△ 10	△ 163	68	231	120
純利益 (△損失)*	△ 30	△ 45	△ 15	△ 169	41	211	100
EBITDA	145	144	△ 1	468	567	98	

1-3月期は自動車用ガラス事業  
 で減益。累計では自動車用ガラス  
 事業の減益を建築用ガラス事業、  
 高機能ガラス事業の増益がカバー、  
 グループ全体で営業黒字を継続

【営業利益 (事業別) : 前年比】

(億円)	Q4	累計
建築用	+ 36	+ 125
自動車用	△ 49	△ 97
高機能	△ 1	+ 32
その他	+ 18	+ 10
グループ全体	+ 4	+ 69

ロシアJV宛貸付金の減損損失  
 (△34億円)

ブラジル等持分法適用会社の  
 業績回復

ロシアJV宛投資の一部減損損失  
 (△34億円)

2022年5月12日 | 2022年3月期通期決算報告

\*親会社の所有者に帰属する当期利益 (△損失)

6

まず、6ページの連結損益計算書からご説明致します。

表の左側が第4四半期 (3か月間) の業績、  
 その右側が2022年3月期通期 (12か月間) の業績となります。

当第4四半期は、売上高は前年度比157億円、11%の増収ながら  
 引き続き半導体等の部品不足による自動車減産の影響を受けたうえに  
 ロシアによるウクライナ侵攻、世界的なインフレ傾向に伴うエネルギーを中心とした原燃材料費高騰の  
 影響を受け、当社自動車用ガラス事業でも前年対比減益となりました。  
 しかしながら、事業環境の改善が継続している建築用ガラス事業と高機能ガラス事業が  
 カバーし、グループ全体では4億円の増益、55億円の営業利益を維持できました。

一方、累計では売上高は、前年度比1,013億円、20%の増収となり、  
 6,006億円と通期業績予想を達成、営業利益は自動車用ガラス事業の減益を、  
 建築用ガラス事業と高機能ガラス事業の増益でカバー、  
 前年度比69億円、53%の増益となり、グループ全体で200億円とこちらも通期業績予想を達成ま  
 した。

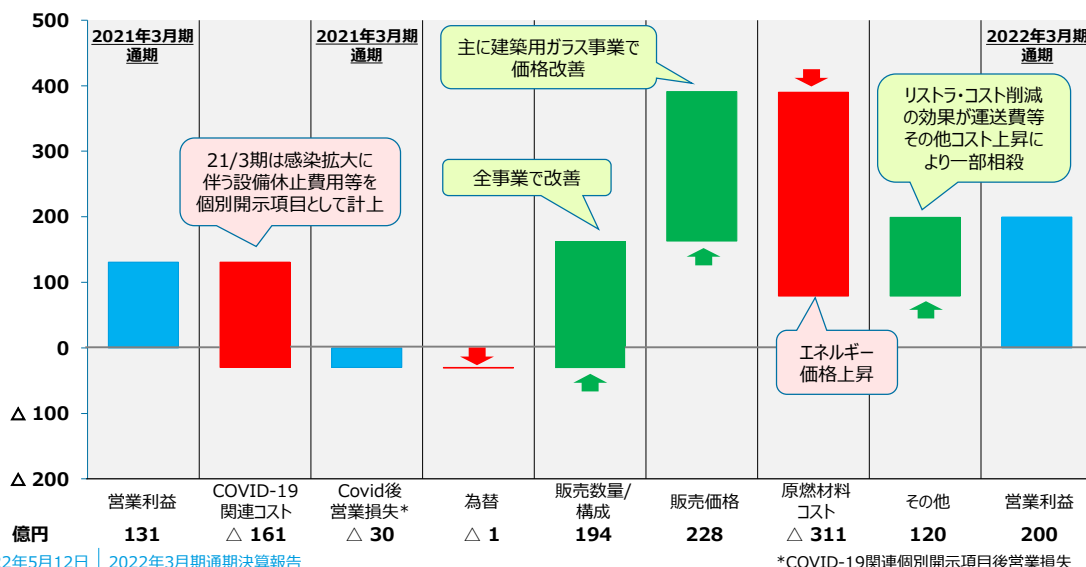
営業利益より下の項目を見て頂くと、累計では、  
 第2四半期にバッテリーセパレーター事業の譲渡に伴う44億円の利益を計上した  
 個別開示項目後の営業利益は236億円となりました。  
 ブラジルのセブラセ社を中心とした持分法による投資損益は75億円と引き続き好調なものの、  
 ロシアのジョイントベンチャーへの貸付金の減損損失34億円、および投資の一部減損損失34億円、  
 合計68億円を計上し、税引前利益は119億円となりました。

なお、当社グループのロシアに関連する事業は、当該ジョイントベンチャー以外にはございません。

以上より、当期利益は68億円、純利益は41億円と3期ぶりに黒字転換し前年度から大幅な改善となりました。

## 営業利益差異分析 (通期累計)

需要の回復に加え、価格改善、コスト削減により原燃材料コスト増加を吸収し、230億円改善



続いて7ページは、通期、累計12か月間の営業利益について、前年度との差異分析です。

前年度は、新型コロナウイルス感染拡大に伴う設備休止費用等を個別開示項目に計上したため、COVID-19関連個別開示項目後営業損失30億円と当第4四半期累計の営業利益200億円の差異、230億円の説明となります。

「為替」の1億円のマイナスは、円安のため前年度の営業損失を当年度の為替レートで計算すると営業損失が増加することによるものです。

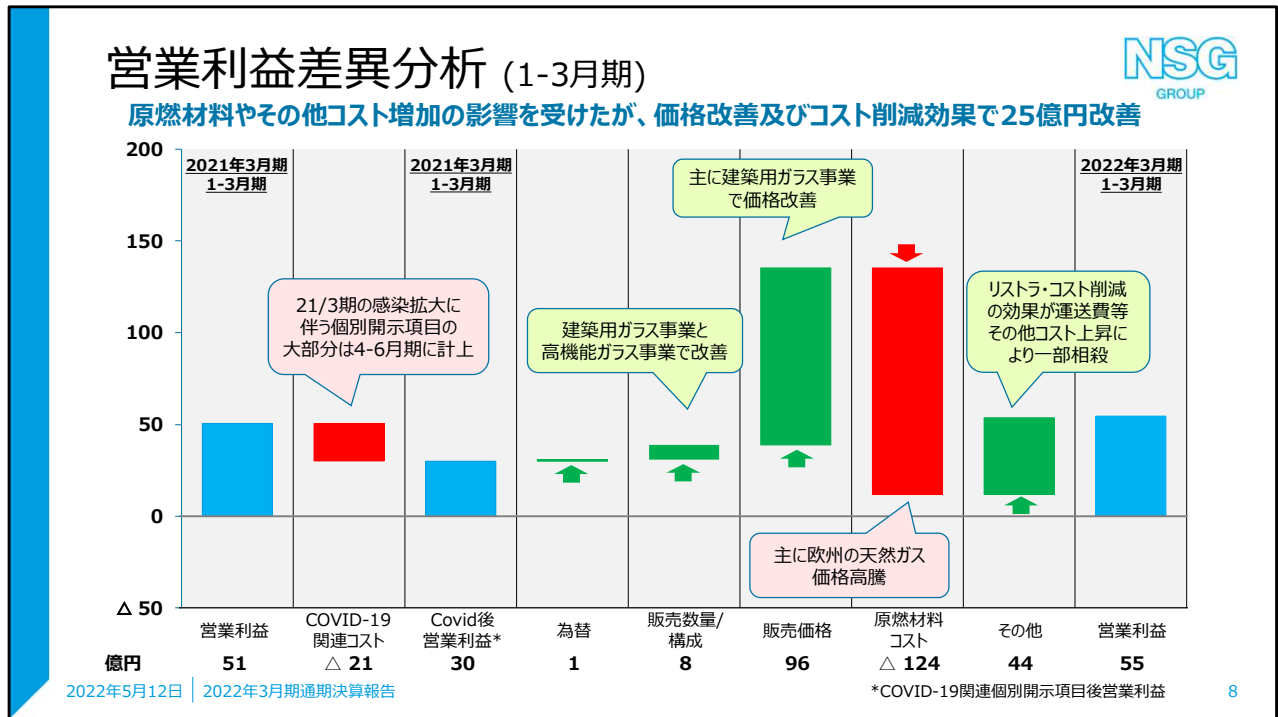
「販売数量/構成」は194億円のプラス、全事業で新型コロナウイルス感染拡大の影響を大きく受けた前年度から大幅に改善しました。

「販売価格」は228億円のプラス、主に建築用ガラス事業の欧州において、良好な需給環境の継続に伴い価格が改善したことによるものです。

「原燃材料コスト」は311億円のマイナス、天然ガスを中心としたエネルギー価格上昇の影響を大きく受けました。

「その他」は120億円のプラス、当社の中期経営計画リバイバル計画24 (RP24) の主要施策であるコスト構造改革の成果が反映されています。





続きまして8ページは1-3月期、第4四半期3か月間の営業利益について前年同期との差異分析となります。

前年度のコロナウイルス感染拡大に伴う個別開示項目の大部分は第1四半期に計上し、第4四半期はCOVID-19関連個別開示項目後で営業利益30億円を計上したため、当第4四半期の営業利益55億円との差異25億円の説明です。

「為替」は円安の影響を受け1億円のプラスでした。

「販売数量/構成」は事業環境の改善が続く建築用ガラス事業と高機能ガラス事業を中心に改善したため、8億円プラスの結果となりました。

「販売価格」は96億円のプラスで、これは主に建築用ガラス事業の欧州において、良好な需給環境と燃料サーチャージ制導入、また年間契約更改に伴い価格が改善したことによるものです。

「原燃材料コスト」は124億円のマイナスで、主に欧州の天然ガスを中心としたエネルギー価格の影響を大きく受けました。

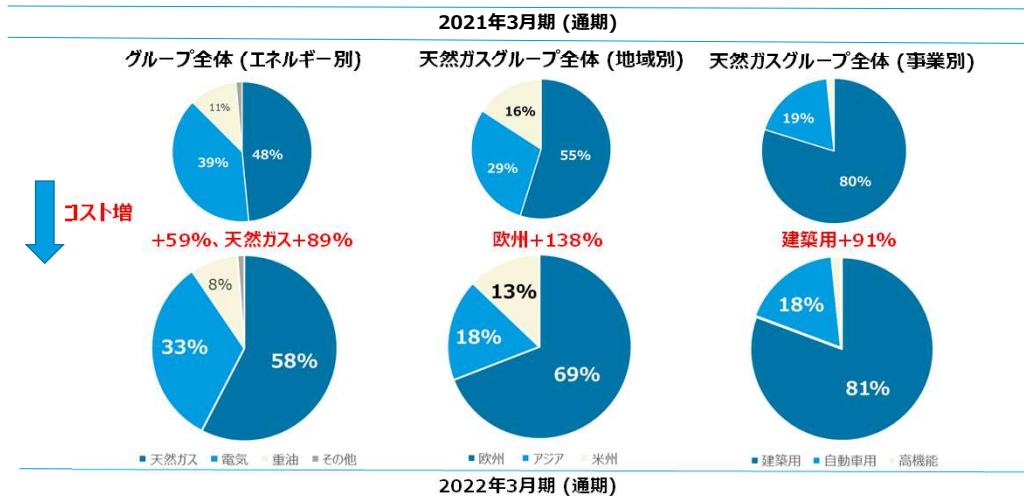
「その他」は44億円のプラスとなりました。

リバイバル計画24（RP24）の主要施策であるコスト構造改革の成果は継続していますが、運送費などその他のコスト上昇により相殺されました。

## エネルギーコスト内訳 (2021年3月期→2022年3月期)

NSG  
GROUP

2022年3月期通期のエネルギーコストは、COVID-19禍からの回復による生産量増とエネルギー価格高騰により、2021年3月期よりグループ全体で+59%、天然ガスは+89%。  
特にエネルギーコストに占める天然ガスの割合は価格高騰により、48%から58%にまで上昇。  
また地域別では欧州、事業別では建築用ガラス事業が天然ガス使用量が大きくコスト上昇の影響を受けた



2022年5月12日 | 2022年3月期通期決算報告

9

次の9ページから11ページでは、エネルギー価格の高騰が当社営業利益に大きな影響を与えた背景についてご説明致します。

まず、グループ全体のエネルギーコストの内訳です。

左側は、エネルギー源による内訳を円グラフにしたものです。

上が2021年3月期 (通期)、下が2022年3月期 (通期) のものですが、全体の約半分が天然ガスとなります。

2021年3月期と比較して、2022年3月期のエネルギーコストは、コロナ禍からの回復による生産量増とエネルギー価格高騰により、グループ全体で59%アップ、天然ガスは89%アップしており、特にエネルギーコストに占める天然ガスの割合は48%から58%に上昇しました。

中央の円グラフは天然ガス使用の状況を地域別に示したもので、欧州が大半を占めており、コストは138%アップしています。

そして右側円グラフが、天然ガスについて事業別に示したものです。

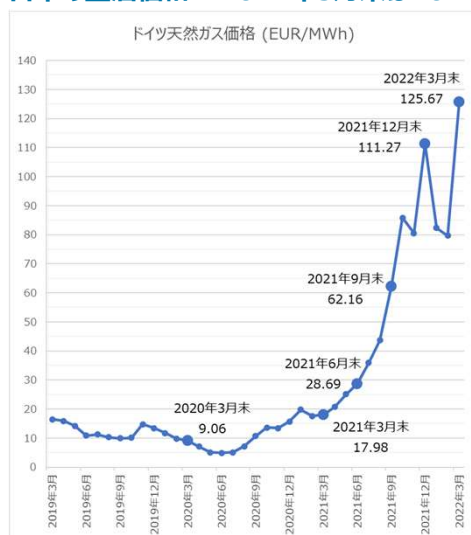
建築用ガラス事業が約80%を占めますが、コストとしては91%アップしています。

欧州の特に建築用ガラス事業において、コスト上昇のインパクトが大きくなっています。

## エネルギー価格の推移

ドイツの天然ガス価格：2022年3月末は2021年3月末対比7.0倍に急騰。

日本の重油価格：2022年3月末は2021年3月末対比70%上昇



2022年5月12日 | 2022年3月期通期決算報告

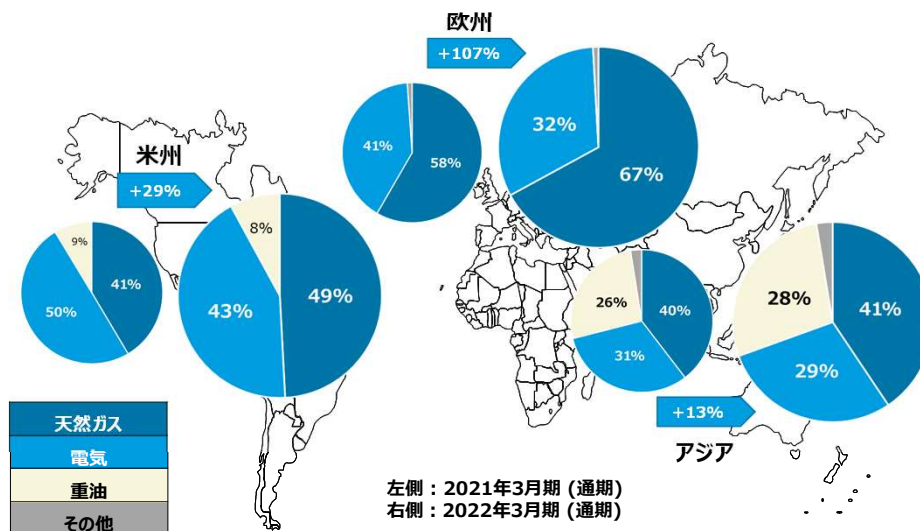
10

続きまして、10ページでエネルギー価格の推移を示しています。

左側がドイツの天然ガスの市場価格の推移、右側が日本の重油の市場価格の推移になりますが、日本における重油価格の高騰、およびドイツの天然ガス価格の急騰がご覧頂けます。

# エネルギーコスト内訳 (地域別)

天然ガス価格の急騰は欧州、重油価格の上昇はアジアのエネルギーコストに大きな影響を与える



2022年5月12日 | 2022年3月期通期決算報告

11ページでは、地域ごとのエネルギー源による内訳を示しています。

欧州、アジア、米州の各地域ごとに、左から2021年3月期 (通期) 実績、2022年3月期 (通期) 実績となります。

前ページで説明した欧州の天然ガスの急騰により欧州エネルギーコストが107%増、天然ガスの比率も9%増加しています。

また米州、アジアにおいてもエネルギーコストはそれぞれ前年度比29%増、13%増と大きな影響が出ています。

## ガラス価格の推移

ドイツのガラス価格は、2022年3月は2021年3月比37%上昇。  
天然ガスを中心とした原燃材料価格高騰の影響を一部軽減



2022年5月12日 | 2022年3月期通期決算報告

12

一方で、12ページはドイツのガラス価格の推移を示しています。

こちらはドイツのガラスの市場価格の推移になりますが、2021年3月から2022年3月にかけて37%上昇しており、欧州の天然ガスを中心とした原燃材料価格高騰の影響を緩和しています。

## 連結貸借対照表



純利益の計上等により自己資本比率が改善、15%超まで回復。  
RP24の財務数値目標を単年度で達成

(億円)	2021年 3月末	2022年 3月末	増減	
<b>資産合計</b>	<b>8,250</b>	<b>9,393</b>	<b>1,143</b>	
非流動資産	5,750	6,370	621	有形固定資産、デリバティブ金融資産、退職給付に係る資産の増加
流動資産	2,500	3,022	523	
<b>負債合計</b>	<b>7,452</b>	<b>7,699</b>	<b>247</b>	
流動負債	2,878	3,067	189	棚卸資産、デリバティブ金融資産の増加
非流動負債	4,574	4,632	58	買掛債務の増加
<b>資本合計</b>	<b>798</b>	<b>1,694</b>	<b>896</b>	
親会社の所有者に帰属する持分	629	1,453	824	純利益の計上、エネルギーヘッジの評価益、円安の影響により改善、自己資本比率15%超まで回復
<b>自己資本比率 (%)</b>	<b>7.6%</b>	<b>15.5%</b>	<b>+7.9pt</b>	
<b>ネット借入</b>	<b>4,117</b>	<b>3,652</b>	<b>△ 466</b>	主にデリバティブ金融資産の増加による

2022年5月12日 | 2022年3月期通期決算報告

13

13ページは連結貸借対照表になります。

非流動資産は、主に固定資産が増加するとともに、世界的に燃料価格が上昇したことにより、エネルギーヘッジに伴うデリバティブ金融資産が増加し、621億円増となりました。

流動資産は、主に自動車用ガラス事業において棚卸資産が増加し、また非流動資産と同様にデリバティブ金融資産が増加し、523億円の増でした。

流動負債は、買掛債務が増加し189億円の増でした。

親会社の所有者に帰属する持分は、純利益の計上、エネルギーヘッジのためのデリバティブの評価益、円安により、824億円増の1,453億円まで回復しました。この結果、自己資本比率は、15.5%と前期末比で7.9ポイント上昇し、RP24の財務目標数値である自己資本比率10%以上を単年度で達成しました。

ネット借入は、主にデリバティブ金融資産の増加を受けて466億円減少しました。

## 連結キャッシュ・フロー計算書



利益改善、キャッシュ管理活動の継続に加え、事業譲渡収入もあり、累計のフリー・キャッシュ・フローは前年度から大きく改善し、プラス。RP24の財務数値目標を単年度で達成

(億円)	1-3月期 (3か月)			通期累計 (12か月)		
	2021年 3月期	2022年 3月期	差異	2021年 3月期	2022年 3月期	差異
営業活動によるキャッシュ・フロー	164	239	76	211	451	240
(うち、運転資本の増減)	97	144	47	51	57	6
投資活動によるキャッシュ・フロー	77	△ 27	△ 104	△ 256	△ 228	28
(うち、有形固定資産の取得)	△ 87	△ 71	16	△ 392	△ 331	61
フリー・キャッシュ・フロー	241	212	△ 28	△ 45	223	268
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 148	△ 89	59	135	△ 208	△ 344
現金及び現金同等物の増減	93	124	31	90	15	△ 76
現金及び現金同等物 期末残高				535	600	65

利益改善やキャッシュ管理の徹底により、前年度から大幅に改善

バッテリーセパレーター事業譲渡収入 (62億円)

前年度から大幅に改善、RP24の目標数値を単年度で達成

2022年5月12日 | 2022年3月期通期決算報告

14

14ページは連結キャッシュ・フロー計算書です。

営業キャッシュ・フローは、1-3月期の3か月間では、増益および運転資本減により前年同期より76億円の増、239億円のプラスとなりました。また、累計では、利益改善、キャッシュ管理の徹底などにより240億円増、451億円のプラスとなりました。

運転資本は累計で前年度末から大きな変化はありませんでした。

投資活動によるキャッシュ・フローは、第2四半期のバッテリーセパレーター事業の売却収入もあり、累計で前年同期比28億円の改善となっています。

この結果、当第4四半期のフリー・キャッシュ・フローは212億円のプラスとなりました。また累計でも前年度比268億円改善し、223億円のプラスとなり、RP24の財務数値目標であるフリー・キャッシュ・フロー100億円以上を単年度で達成しています。

# セグメント情報



(億円)	2020年3月期 通期			2021年3月期 通期				2022年3月期 通期			増減	
	売上高	%	営業利益	売上高	%	営業利益	COVID後* 営業利益	売上高	%	営業利益	売上高	営業利益
<b>建築用ガラス事業</b>	<b>2,337</b>	<b>42%</b>	<b>173</b>	<b>2,155</b>	<b>43%</b>	<b>157</b>	<b>92</b>	<b>2,818</b>	<b>47%</b>	<b>281</b>	<b>663</b>	<b>125</b>
欧州	871	16%		852	17%			1,160	19%		309	
アジア	914	16%		772	15%			862	14%		90	
米州	552	10%		531	11%			795	13%		264	
<b>自動車用ガラス事業</b>	<b>2,810</b>	<b>51%</b>	<b>61</b>	<b>2,452</b>	<b>49%</b>	<b>18</b>	<b>△ 78</b>	<b>2,762</b>	<b>46%</b>	<b>△ 79</b>	<b>311</b>	<b>△ 97</b>
欧州	1,198	22%		1,036	21%			1,167	19%		131	
アジア	671	12%		606	12%			604	10%		△ 2	
米州	941	17%		810	16%			992	17%		182	
<b>高機能ガラス事業</b>	<b>401</b>	<b>7%</b>	<b>71</b>	<b>368</b>	<b>7%</b>	<b>67</b>	<b>65</b>	<b>398</b>	<b>7%</b>	<b>99</b>	<b>30</b>	<b>32</b>
欧州	71	1%		64	1%			79	1%		15	
アジア	317	6%		293	6%			306	5%		12	
米州	13	0%		11	0%			13	0%		2	
<b>その他</b>	<b>14</b>	<b>0%</b>	<b>△ 75</b>	<b>17</b>	<b>0%</b>	<b>△ 111</b>	<b>△ 108</b>	<b>27</b>	<b>0%</b>	<b>△ 101</b>	<b>10</b>	<b>10</b>
<b>合計</b>	<b>5,562</b>	<b>100%</b>	<b>230</b>	<b>4,992</b>	<b>100%</b>	<b>131</b>	<b>△ 30</b>	<b>6,006</b>	<b>100%</b>	<b>200</b>	<b>1,013</b>	<b>69</b>

2022年5月12日 | 2022年3月期通期決算報告

\*COVID-19関連個別開示項目後営業利益 15

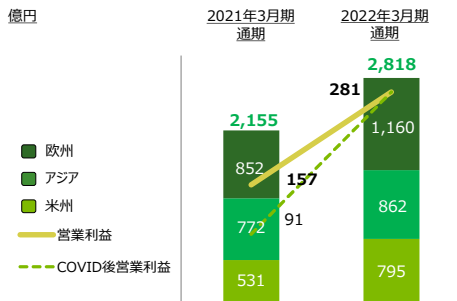
15ページは、過去3か年度の通期の事業セグメント毎に売上高及び営業利益を示しています。各事業の詳細については次ページ以降のスライドでご説明します。



# 建築用ガラス事業 (累計：増収・増益 1-3月期：増収・増益)



全地域で堅調な需要により大幅な増収を継続。エネルギー価格高騰の影響を受けるが価格改善およびコスト削減により軽減し、大幅な増益を達成、2020年3月期をも大きく上回る



(億円)	累計(12か月)		1-3月期(3か月)				通期累計(12か月)		
	2020年3月期	2021年3月期	2022年3月期	差異	2021年3月期	2022年3月期	差異		
売上高	2,337	594	750	155	2,155	2,818	663		
欧州	871	245	318	73	852	1,160	309		
アジア	914	189	215	26	772	862	90		
米州	552	160	216	56	531	795	264		
営業利益	173	41	77	36	157	281	125		
COVID後営業利益*	167	34	77	43	91	281	190		

2022年5月12日 | 2022年3月期通期決算報告

\*COVID-19関連個別開示項目後営業利益 16

## 欧州 (累計：増収・増益 1-3月期：増収・増益)

- 供給能力を上回る需要により販売数量および価格が上昇
- 1-3月期も原燃材料費や輸送コスト高が継続したが、燃料サーチャージ制の導入により収益性は10-12月期比で大幅改善

## アジア (累計：増収・増益 1-3月期：増収・増益)

- 日本の販売数量および価格が回復、日本以外でもCOVID-19影響後の経済回復を反映して好調を維持
- 太陽電池パネル用ガラスの需要は堅調

## 米州 (累計：増収・増益 1-3月期：増収・増益)

- 北米は、フロート窯の定期修繕と輸送コンテナ不足による出荷の制約が続くが、強い需要を背景に販売数量および価格が上昇
- 太陽電池パネル用ガラスの需要は堅調
- 南米は強い需要が継続

16ページは、建築用ガラス事業です。

建築用ガラス事業は、欧州をはじめ全地域で強い需要を反映して大幅な増収が継続しています。

エネルギー価格高騰の影響を受けましたが、需給環境を反映した値上げやコスト削減努力により軽減し、大幅な増益を継続しました。

売上、利益共に、新型コロナウイルスの影響を受ける前の2020年3月期を大きく上回っています。

欧州は、増収増益となりました。

供給能力を上回る好調な需要により販売数量・価格がともに改善しました。

1-3月期も、原燃材料費や輸送コストの高騰が続きましたが、燃料サーチャージ制導入に伴う価格改善、年間契約の更改とともに、安定した操業やコスト削減を継続することにより軽減し、収益性は10-12月期比大幅に改善しました。

アジアも、増収増益でした。

日本国内における販売数量・価格は回復し、

その他東南アジアの国々においてもコロナ影響後の経済回復を反映して好調を維持しています。太陽電池パネル用ガラスの需要も堅調に推移しています。

米州も、増収増益となりました。

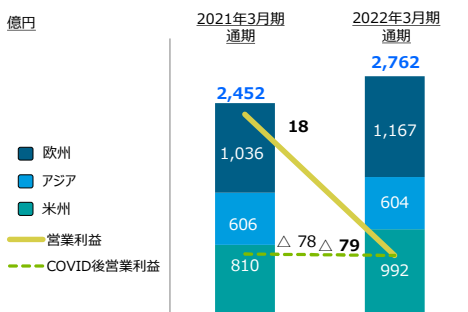
北米は、フロート窯の定期修繕と輸送コンテナの不足により、若干出荷が制約されましたが、強い需要を背景に販売数量は増加、太陽電池パネル用ガラスの売上は引続き好調です。

南米は、強い需要が継続しています。

# 自動車用ガラス事業 (累計：増収・減益 1-3月期：増収・減益)



1-3月期は増収だが、部品不足による自動車生産制約の影響が続く。  
 原燃材料費高騰の影響を受け、コスト削減努力にもかかわらず減益となり、累計でも減益



欧州 (累計：増収・減益 1-3月期：減収・減益)  
 アジア (累計：減収・減益 1-3月期：減収・減益)  
 米州 (累計：増収・減益 1-3月期：増収・減益)

- 1-3月期も、半導体等自動車部品不足による自動車生産の制約の影響を受け、欧州、日本を含むアジアで販売数量が減少
- 原燃材料コスト高騰が続くなか、コスト削減努力も継続、10-12月期比赤字幅は縮小したが、1-3月期は全地域で減益、累計でも減益

(億円)	累計(12か月)		1-3月期(3か月)		通期累計(12か月)		
	2020年3月期	2021年3月期	2022年3月期	差	2021年3月期	2022年3月期	差
売上高	2,810	716	730	14	2,452	2,762	311
欧州	1,198	315	303	△ 12	1,036	1,167	131
アジア	671	172	160	△ 13	606	604	△ 2
米州	941	229	266	38	810	992	182
営業利益	61	29	△ 20	△ 49	18	△ 79	△ 97
COVID後営業利益*	47	17	△ 20	△ 37	△ 78	△ 79	△ 1

2022年5月12日 | 2022年3月期通期決算報告

\*COVID-19関連個別開示項目後営業利益 17

17ページは自動車用ガラス事業です。

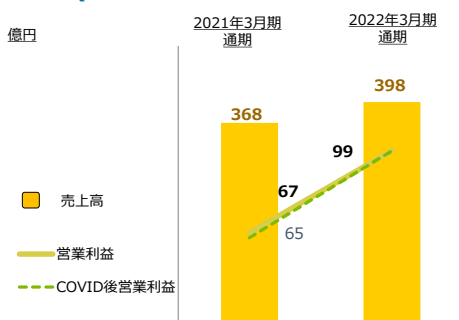
自動車用ガラス事業は、1-3月期は全体として増収でしたが、引き続き半導体等部品不足による自動車生産制約の影響を受け、欧州、日本を含むアジアで販売数量が減少しました。

また、販売数量減少に加え、原燃材料コスト高騰の影響を受け、継続的なコスト削減努力が減殺され、全地域で減益となりました。ただし、赤字幅は10-12月期より縮小しました。

# 高機能ガラス事業 (累計：増収・増益 1-3月期：増収・増益)



引き続きCOVID-19の影響があった前年同期から事業環境が改善、増収増益を継続  
(9月以降は売却したバッテリーセパレーター除く)



## 高機能ガラス事業

- ファインガラスは、継続的なコスト削減による事業基盤の強化や売上構成の改善により業績は改善
- プリンター用レンズは、在宅勤務、オンライン授業向けにプリンター需要が引き続き増加
- グラスコードはアフターマーケット用を中心に需要が堅調。メタシャイン® は化粧品向け市場で需要回復の兆し

(億円)	累計(12か月)		1-3月期(3か月)				通期累計(12か月)		
	2020年 3月期	2021年 3月期	2022年 3月期	差異	2021年 3月期	2022年 3月期	差異		
売上高	401	102	90	△ 12	368	398	30		
営業利益	71	22	21	△ 1	67	99	32		
COVID後営業利益*	70	22	21	△ 1	65	99	34		

2022年5月12日 | 2022年3月期通期決算報告

\*COVID-19関連個別開示項目後営業利益 18

続きまして18ページです。

高機能ガラス事業は、コロナの影響があった前年同期から事業環境改善が継続し、増収増益となりました。

9月以降の業績は売却したバッテリーセパレーター事業分がなくなっています。

ファインガラスは、継続的なコスト削減による事業基盤の強化や売上構成の改善により業績は改善しました。

プリンター用レンズは、在宅勤務、オンライン授業向けにプリンター需要が引き続き増加しています。

グラスコードはアフターマーケット用を中心に需要が堅調でした。

## 2. 2023年3月期 業績予想について

## 2023年3月期業績予想の前提

グループ	<p><b>増収だが営業利益は減益、純利益は横ばいの計画</b>  <b>引き続きRP24の重点施策「財務基盤の回復」を推進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 需要回復に伴う販売数量増加、全事業で価格転嫁を実施し増収の見込み</li> <li>● 一方で、ロシアのウクライナ侵攻の影響を受けてエネルギー価格高騰、世界的なインフレ傾向等で投入コスト増加が継続、グループ全体では営業利益は減益の見込み</li> <li>● 引き続き全社的なコスト削減に努め、営業利益の改善に注力</li> </ul>
建築用ガラス	<p><b>全地域で良好な需給環境が継続するが、欧州を中心にエネルギー価格高騰の影響が続く</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 欧州：需給引締めを受けた価格上昇は継続、天然ガス価格高騰等で収益性は低下</li> <li>● アジア：日本の数量および価格も回復基調にあり、好調継続</li> <li>● 北米：経済活動回復に伴い域内市場が好調</li> <li>● 南米：タイトな需給環境が継続、アルゼンチンの新フロート窯の稼働が貢献</li> <li>● 太陽電池パネル用ガラス：ベトナムでの定期修繕などもあるが、堅調な需要が続く</li> </ul>
自動車用ガラス	<p><b>自動車需要は堅調だが、半導体等部品不足と原燃材料費高騰の影響が続く</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 全地域で強い自動車需要と在庫逼迫感継続</li> <li>● 半導体等部品不足は続くが、徐々に解消していく見込み</li> <li>● 日本の定期修繕は順調に進捗</li> <li>● 原燃材料費高騰の影響を価格上昇、コスト削減により軽減、黒字転換を目指す</li> </ul>
高機能ガラス	<p><b>全体として事業環境の改善が継続</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● ファインガラスは、売上構成の改善と継続的なコスト削減が貢献</li> <li>● プリンター用レンズは当面在宅勤務による需要増加の恩恵が続く</li> <li>● グラスコードは、アフターマーケット用を中心に需要拡大</li> </ul>

2022年5月12日 | 2022年3月期通期決算報告

20

続いて2023年3月期の業績予想です。

スライド20は2023年3月期業績予想の前提を示しています。

2023年3月期の通期売上高は、需要回復に伴い販売数量が増加し、また全事業で価格転嫁を進めるため、増収となる計画です。

一方、営業利益は、ロシアによるウクライナ侵攻の影響を受けたエネルギー価格の高騰、世界的なインフレ傾向を反映した投入コスト増加が継続する見込みで、グループ全体では減益ですが、純利益は横ばいの計画です。

引き続き全社的なコスト削減努力を継続し、営業利益の改善、RP24の「財務基盤の回復」の推進に注力して参ります。

事業別に見ますと、建築用ガラス事業では

欧州では、良好な需給環境を踏まえ、さらなる価格改善の継続を想定していますが、高騰した天然ガスを中心としたエネルギー価格は高止まり、収益性が低下する見込みです。

アジアでは、日本の数量および価格も回復基調にあり、好調が継続する見込みです。

北米では、経済活動回復に伴う域内市場は引き続き好調、

南米でもタイトな需給環境が継続し、さらにアルゼンチンでの新フロート窯の稼働が貢献する想定です。

太陽電池パネル用ガラスは、ベトナムで定期修繕を予定していますが、引き続き好調な需要を反映した数量増加を見込んでいます。

自動車用ガラス事業では、全地域で堅調な自動車需要があり、

半導体不足に伴う自動車生産の制約は暫くは続くものの、徐々に解消していく見込みです。

原燃材料費の高騰の影響は継続しますが、価格転嫁を進めることによる価格上昇、

コスト削減により軽減し、黒字転換を目指します。  
なお、日本の舞鶴の定期修繕は順調に進捗しています。

高機能ガラス事業では引き続き好ましい事業環境が継続する見込みです。

## 2023年3月期通期業績予想



数量増加、価格上昇を見込み、対前年度増収ながら、ロシアのウクライナ侵攻の影響で広く事業を展開する欧州を中心に原燃材料費等コスト上昇の影響を見込み、減益を予想。収益力回復のため、コスト削減と価格転嫁、キャッシュ管理に努め、RP24の重点施策「財務基盤の回復」を推進

(億円)	2022年3月期		2023年3月期		増減	
	実績		予想			
	上期	通期	上期	通期	上期	通期
売上高	2,907	6,006	3,200	6,500	293	494
営業利益	127	200	70	180	△ 57	△ 20
個別開示項目 (その他)	45	36	20	20	△ 25	△ 16
個別開示項目後営業利益	172	236	90	200	△ 82	△ 36
金融費用 (純額)	△ 58	△ 125	△ 70	△ 130	△ 12	△ 5
持分法適用会社に対する 金融債権の減損損失	-	△ 34	-	-	-	34
持分法による投資利益	33	75	20	40	△ 13	△ 35
持分法投資に関するその他の利益 (△損失)	-	△ 34	-	-	-	34
税引前利益	147	119	40	110	△ 107	△ 9
当期利益	96	68	20	50	△ 76	△ 18
純利益*	86	41	20	40	△ 66	△ 1

2022年5月12日 | 2022年3月期通期決算報告

\*親会社の所有者に帰属する当期利益

21

スライド21ページです。

2023年3月期の業績予想になります。

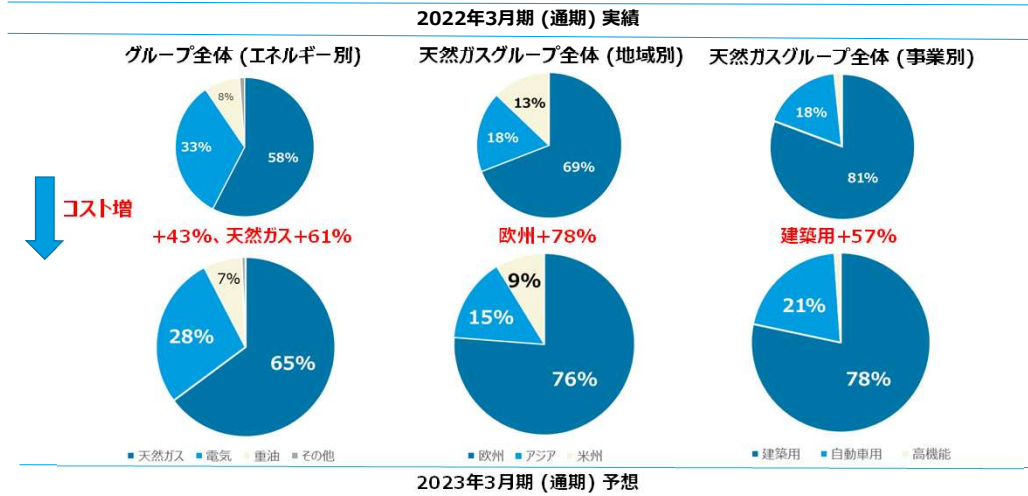
表の左側から、前年度2022年3月期の上期および通期実績、今年度2023年3月期の上期および通期予想と並んでおります。

先ほど申し上げました通り、販売数量及び販売価格の改善により売上高は494億円増収の6,500億円を見込みますが、営業利益はコスト増加の影響を受け20億円減益の180億円を見込みます。

引き続きコスト削減と価格転嫁、キャッシュ管理に注力し、純利益は40億円とほぼ前期並みの黒字を継続、RP24に沿った財務基盤の回復を進めて参ります。

# エネルギーコスト内訳 (2022年3月期実績→2023年3月期予想) NSG GROUP

2023年3月期もロシアによるウクライナ侵攻の影響を受け、エネルギー価格の高騰を見込み、前年度対比グループ全体で+43%、天然ガスは+61%。特に欧州の天然ガスの高騰を見込む。



2022年5月12日 | 2022年3月期通期決算報告

22

スライド22ページでは、2023年3月期業績予想におけるエネルギーコストについて説明いたします。

まず、グループ全体のエネルギーコストの内訳です。

左側は、エネルギー源による内訳を円グラフにしたものです。

上が2022年3月期 (通期) 実績、下が2023年3月期 (通期) 予想のものです。2022年3月期実績と比較して、2023年3月期予想のエネルギーコストは、グループ全体で43%アップ、天然ガスは61%アップとさらに増加する見込みです。

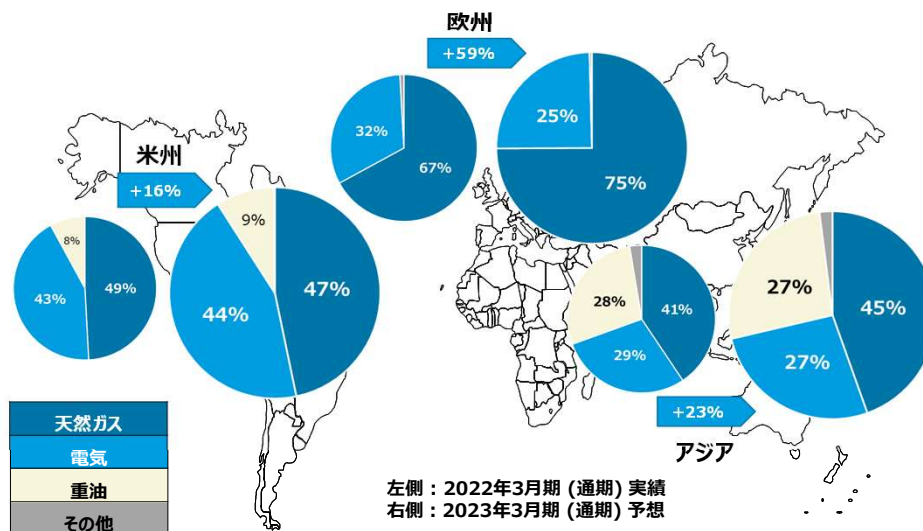
中央の円グラフは天然ガス使用の状況を地域別に示したもので、欧州におけるコストは78%増え、更に全体に占める割合も増加し76%にまで上昇する見込みです。

そして右側円グラフが、天然ガスについて事業別に示したものです。建築用ガス事業におけるコストは57%増加する見込みです。



# エネルギーコスト内訳 (地域別)

高騰した天然ガスが引き続き欧州で大きな影響を与える



2022年5月12日 | 2022年3月期通期決算報告

23ページでは、地域ごとのエネルギー源による内訳を示しています。

欧州、アジア、米州の各地域ごとに、左から2022年3月期 (通期) 実績、2023年3月期 (通期) 予想となります。

前ページで説明した通り、欧州の天然ガスの高騰が継続することより、欧州エネルギーコストが59%増、天然ガスの比率も8%上昇するほか、2023年3月期も、全地域でエネルギーコストが増加する見込みです。

# 自動車用ガラス事業の収益改善策

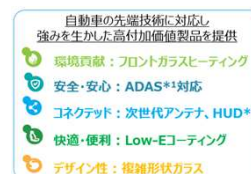


## 事業環境

- 自動車需要は依然強いが、部品不足に伴う自動車生産の制約
- 欧州の天然ガスを中心とした原燃材料費が高騰
- CASEの急激な進展により、自動車産業を支えるサプライチェーンは大きく変化
  - ・ ヘッドアップ・ディスプレイ付きフロントガラス、5G対応ガラスアンテナ、EV向け省エネコーティングガラスなどのニーズは高まる一方、リソース配分の選択と集中が必要になる
  - ・ 補修用ガラスでもCASEへの対応が増加

## 収益改善策

- コスト削減
  - ・ 製造拠点や物流拠点の統廃合も視野に入れ、一昨年以来の人員削減とRP24に基づく抜本的なコスト構造の改革に取組
- 高付加価値化
  - ・ 高精度フロントガラスなどの当社独自の技術を活用し、高付加価値製品を拡大
  - ・ 補修用ガラスにおけるADAS対応とセールスネットワーク拡大
- 自動車メーカーへの価格転嫁の推進



\*1 ADAS: 先進運転支援システム (Advanced Driver Assistant System)  
\*2 HUD: フロントガラスなどに直接情報を映し出すことができる技術 (Head Up Display)

2022年5月12日 | 2022年3月期通期決算報告

24

スライド24です。

自動車用ガラス事業は、2022年3月期まで2期連続営業赤字となっていますが、スライド20で申し上げました通り、2023年3月期に黒字転換を目指します。そのための自動車用ガラス事業の収益改善策についてです。

まず、現在自動車用ガラス事業が置かれている事業環境は、半導体等部品不足に伴う自動車生産が制約を受け、さらにロシアのウクライナ侵攻の影響でエネルギー価格高騰、世界的なインフレ傾向等でエネルギー等投入コストの増加が継続しており、極めて不安定な状況です。

一方で、自動車に対する強い需要は継続しており、また、ここ数年はCASEの急速な進展に伴うヘッドアップ・ディスプレイ付フロントガラス等、高付加価値製品へのニーズが高まり、自動車関連産業におけるサプライチェーンは大きな変革期にあります。

これに対し当社グループは、欧米を中心に製造拠点や物流拠点の統廃合も視野に入れて、一昨年以來2年間人員削減に取り組むとともに、固定費を削減すべくRP24に基づく抜本的なコスト構造改革に取り組んできました。また、CASEに伴う高付加価値製品に対するニーズの高まりに対応し、これを当社グループにとっての絶好の機会と捉え、独自の技術を活用した高精度フロントガラスなどの高付加価値製品を拡大し、また補修用ガラスにおいてはADAS対応製品とともにセールスネットワークを拡大し、利益率の改善を目指します。

さらに、昨今の高騰した原燃材料価格を正當に製品価格に反映させるため、自動車メーカーへの価格転嫁を推進しています。



以上のコスト削減、高付加価値化、価格転嫁の推進により、不透明な事業環境を乗り越え、強い決意で2023年3月期の自動車事業の黒字転換を目指します。

### 3. リバイバル計画24 (RP24) に基づく構造改革施策の進捗

# リバイバル計画24 (RP24) に基づく構造改革施策の進捗



RP24に基づき、持続的な成長が可能な事業体質を目指して主要施策を遂行中。  
財務目標数値では、自己資本比率、フリー・キャッシュ・フローについて単年度で達成

3つの改革	<b>コスト構造改革</b> ・ 人員削減：欧米の自動車用ガラス事業を中心に拠点、製造ラインを統廃合、22/3期で約1,000人を削減、21/3期と合わせて20/3期比2,340人の削減（同136億円削減）（退職コストは21/3期に引当済） ・ コスト削減：「改革・革新」活動を通じた直接費低減を推進、期末までに50億円を削減 ・ 自動車用ガラス事業における追加コスト削減は、計画を上回る約68億円を実施	
	<b>事業構造改革</b> ・ アルゼンチン新フロート窯建設は順調に進捗、2023年3月期上半期稼働予定 ・ 世界初、バイオ燃料を100%利用したフロートガラス製造実験に成功	 <p>アルゼンチン新フロート窯全景</p>
	<b>企業風土改革</b> ・ 「インクルージョン&ダイバーシティ (I&D)」：国際ガラス年の2022年、全ての人が「ガラス」のように輝ける場の提供を目指しグローバルで「国際女性デー2022」に様々な活動を実施。 ・ 「双方向コミュニケーションの活性化」：全従業員意識調査とそれに基づく対話促進	
2つの重点施策	<b>財務基盤の回復 (2022年3月期 通期実績)</b> ・ 税引前利益、純利益は黒字に転換。純損益は前年同期から211億円の大幅改善、自己資本比率も15%超まで回復 ・ 2022年3月末現預金残高604億円、未使用融資枠532億円	
	<b>高収益事業へのポートフォリオ転換</b> ・ First Solar社の生産能力増強に対して、当社太陽電池パネル用ガラスの生産能力増強を検討中 ・ 高弾性・高強度ガラスファイバー「MAGNAVI®」には、カーボンファイバー代替を中心に数多くの引き合い ・ 日射光の透過率を向上させた「NSG ポタニカル™」シリーズを立ち上げ、収穫量最大化への貢献を目指す	 <p>NSG Botanical</p>

2022年5月12日

2022年3月期通期決算報告

RP24 説明資料:

[https://www.nsg.co.jp/-/media/nsg-jp/ir/ir-presentations/mtprp24presentation2021\\_j01.pdf](https://www.nsg.co.jp/-/media/nsg-jp/ir/ir-presentations/mtprp24presentation2021_j01.pdf)

26

CEOの森です。

続いてリバイバル計画24 (RP24) に基づく構造改革について、26ページで主要な進捗をご説明します。

RP24では持続的な成長が可能な事業体質を目指して「3つの改革」と「2つの重点施策」を掲げていますが、「3つの改革」における進捗についてご説明致します。

2022年3月期は、下期以降は自動車の生産台数の制約や原燃材料価格の高騰など大変な逆風でしたが、そのような状況下においてもRP24については手を緩めることなく推進できたと認識しております。

1つ目の「コスト構造改革」については、人員削減を含むあらゆるコスト削減・生産性向上を策定、実施中です。

人員削減では、主に欧米の拠点、製造ラインの統廃合を実施しています。

当期累計で約1,000人が退職され、前期と合わせて2,340人が退職されました。

このコスト削減効果は、累計で2020年3月期と比較して136億円となりました。なお、退職コストは前期2021年3月期に既に引当済みです。

コスト削減については、特に製造現場では「改革・革新」活動を通じた直接費低減の取り組みを実行中であり、期末までに50億円削減を達成しました。

また、第2四半期より実施している自動車用ガラス事業における追加のコスト削減では、計画の52億円を上回る68億円のコスト削減を実施しました。

続いて「事業構造改革」では高付加価値事業の拡大・新規成長分野の育成を進めています。

既に太陽電池パネル用ガラスが当社の収益とともに環境にも貢献していますが、

高付加価値事業の拡大のため進めてきたアルゼンチンの新フロート窯の建設は、2023年3月期上

半期での本格稼働を目指し順調に進捗中です。

また、2050年のカーボンニュートラルを達成するためにCO2排出量を削減する重要な取り組みの一つとして、水素燃焼に続き、バイオ燃料を100%利用したフロートガラス製造実験に成功しました。

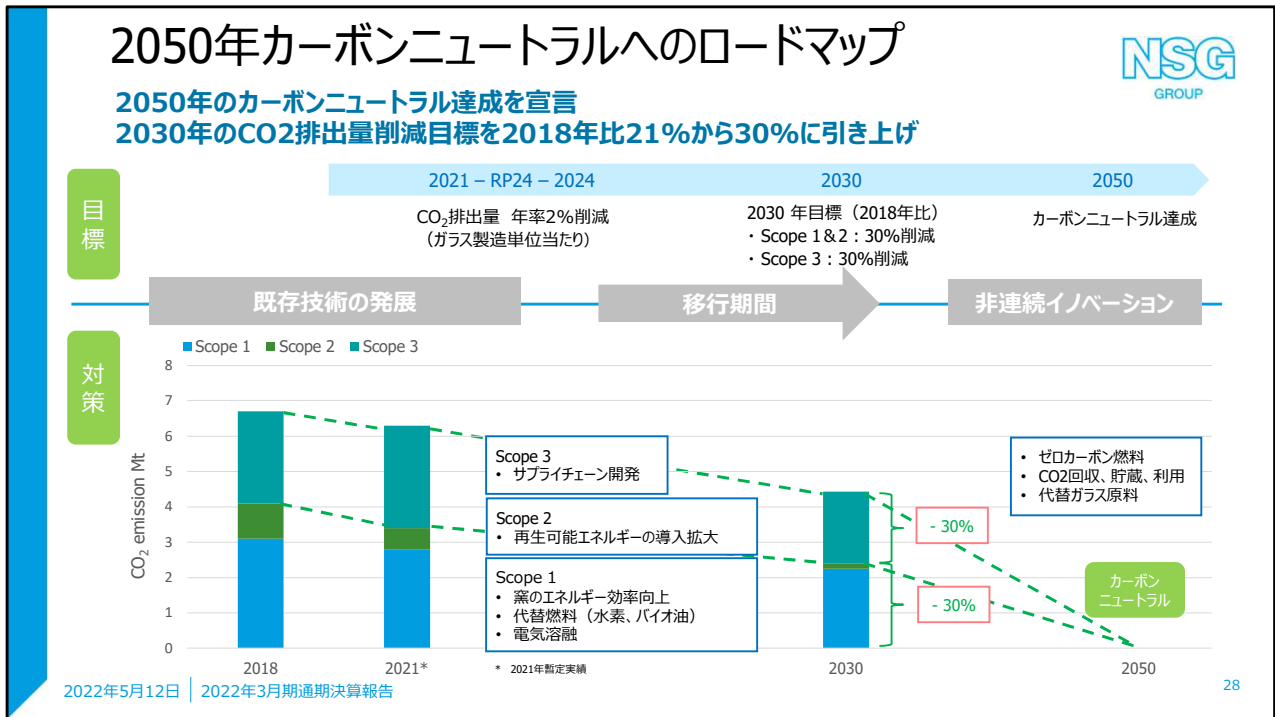
「企業風土改革」は「コスト構造改革」および「事業構造改革」を成し遂げるために必要なものであり、「インクルージョン&ダイバーシティ (I&D)」活動として、本年2022年は国際ガラス年であることから、全ての人々が「ガラス」のように輝ける場の提供を目指しグローバルで「国際女性デー2022」に様々な活動を実施しました。また、全従業員意識調査を実施し、それに基づく対話を促進することによる双方向コミュニケーションの活性化を図っています。

続いて「2つの重点施策」についてご説明致します。

「財務基盤の回復」については、「コスト構造改革」や「事業構造改革」等が功を奏し、純損益が前年度から211億円と大幅に改善するとともに、エネルギーヘッジの評価益もあり、自己資本比率も15%超まで回復しました。フリー・キャッシュ・フローと自己資本比率は、RP24の財務目標数値を単年度で達成しています。

「高収益事業へのポートフォリオ転換」については、First Solar社の生産能力増強に対して、当社太陽電池パネル用ガラスの生産能力増強を検討しているところです。  
また、先日新開発を発表した高弾性・高強度ガラスファイバーの「MAGNAVI ®」は、カーボンファイバー等の代替として、潜在的なお客様から数多くのご照会を頂いています。今般「NSG ボタニカル™」シリーズを新たに開発し、人口増加や地球温暖化の下での温室栽培における収穫量の最大化、持続的社會への貢献を目指します。

## 4. サステナビリティの推進



スライド28ページでは、当社グループのサステナビリティの進捗状況をご説明致します。

気候変動をはじめとする環境問題への取り組みは当社グループの持続的成長の実現に向けた大きな経営課題であると認識しています。

今般、当社グループは2050年にカーボンニュートラルを達成することをコミットし、その達成に向け、2030年までの温室効果ガスの削減目標をScope1とScope2合計で従来の2018年比21%から30%に引き上げました。また、Scope3の削減目標を新たに設定し、2030年までに30%としています。

これらの目標達成のため、窯のエネルギー効率向上を含むガラス製造プロセスの最適化、代替燃料や再生可能エネルギーの導入拡大、サプライチェーン開発など、既存技術の発展、非連続的なイノベーションにも取り組みます。

詳細につきましては、本日付のプレスリリースをご参照下さい。

## 5. まとめ



# まとめ



## 1. 2022年3月期 通期決算

- 建築用ガラス事業および高機能ガラス事業の好調により黒字を継続、売上高と営業利益は通期業績予想を達成
- ロシアJV関連について、持分法適用会社への貸付金と投資の減損損失を計上
- 事業業績等により自己資本、キャッシュ・フローもさらに改善

## 2. 2023年3月期 通期業績予想

- 需要回復に伴う販売数量増加、全事業で価格転嫁を進め増収の見込み
- 一方で、ロシアのウクライナ侵攻の影響や世界的なインフレ傾向でエネルギー価格高騰等による投入コスト増加は継続、グループ全体では営業利益は減益、純利益は横ばいの見込み
- 引き続き全社的なコスト削減に努め、営業利益の改善に注力

## 3. リバイバル計画24 (RP24) に基づく構造改革施策の進捗

- コスト構造改革：人員削減およびコスト削減が進捗
- 事業構造改革：アルゼンチン新フロート窯建設は順調に進捗、2023年上期稼働予定
- 財務基盤の回復：財務目標数値では、自己資本比率、フリー・キャッシュ・フローについて単年度で達成

## 4. サステナビリティの推進

- 2050年にカーボンニュートラル達成をコミット
- 2030年にCO2排出量の削減目標を2018年比21%から30%に引き上げ

## ご注意



当資料の業績見通しは、当社が現時点で入手可能な情報及び合理的であると判断する一定の前提にもとづいており、実際の業績は見通しと異なる可能性があります。その要因の主なものとしては、主要市場の経済環境及び競争環境、製品需給、為替・金利相場、原燃料市場環境、法規制の変動等がありますが、これらに限定されるものではありません。

日本板硝子株式会社

## 補足資料



- 連結損益計算書 四半期別推移
- 事業部門別・地域別業績 四半期別推移
- 四半期別セグメント情報
- 個別開示項目
- 地域別売上高及び営業利益
- 為替レート・為替感応度
- 減価償却費・資本的支出・研究開発費
- 2021年11月～2022年4月 主なニュースリリース

# 連結損益計算書 四半期別推移



(億円)	2020年 3月期				2021年 3月期				2022年 3月期			
	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期
売上高	1,471	1,415	1,372	1,304	919	1,297	1,358	1,419	1,477	1,430	1,523	1,576
営業利益 (△損失)	88	61	31	32	△ 6	38	48	51	72	55	18	55
営業利益率	6.0%	4.3%	2.3%	2.5%	-	2.9%	3.5%	3.6%	4.9%	3.9%	1.2%	3.5%
個別開示項目 (COVID-19関連)	-	-	-	△ 22	△ 115	△ 13	△ 12	△ 21	-	-	-	-
COVID-19関連個別開示項目後 営業利益 (△損失)	88	61	31	10	△ 121	25	36	30	72	55	18	55
個別開示項目 (その他)	△ 6	△ 16	△ 22	△ 174	△ 1	△ 8	10	△ 61	△ 2	47	△ 2	△ 7
個別開示項目後営業利益 (△損失)	82	45	9	△ 164	△ 122	17	46	△ 31	70	102	17	48
金融費用 (純額)	△ 35	△ 28	△ 32	△ 23	△ 24	△ 30	△ 21	△ 35	△ 29	△ 29	△ 32	△ 34
持分法適用会社に対する 金融債権の減損損失	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	△ 34
持分法による投資利益	5	3	4	△ 1	△ 4	2	10	13	15	19	22	19
持分法投資に関するその他の利益 (△損失)	-	-	-	-	-	-	-	6	-	-	-	△ 34
税引前利益 (△損失)	52	20	△ 19	△ 188	△ 149	△ 11	35	△ 47	55	92	7	△ 36
当期利益 (△損失)	31	△ 7	△ 5	△ 194	△ 165	△ 7	37	△ 28	29	67	10	△ 38
純利益 (△損失)*	29	△ 10	△ 7	△ 201	△ 164	△ 9	34	△ 30	25	61	0	△ 45
EBITDA	175	142	115	118	61	127	135	145	165	146	111	144

\*親会社の所有者に帰属する当期利益 (△損失)

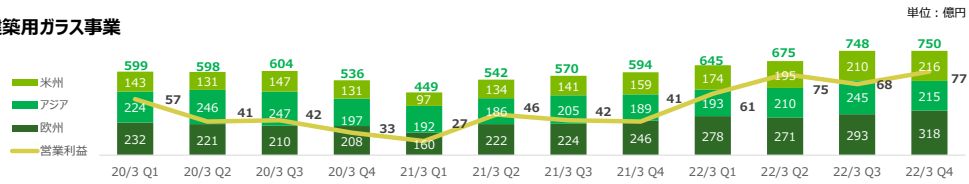
2022年5月12日 | 2022年3月期通期決算報告

33

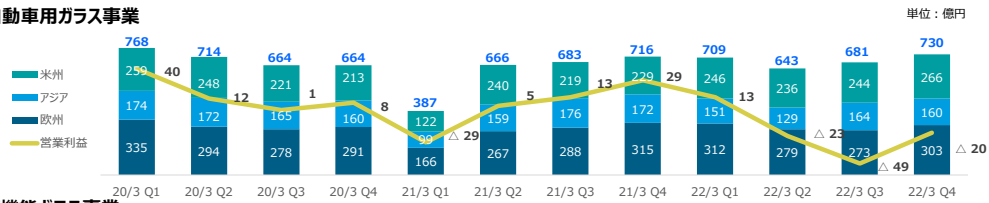
# 事業部門別・地域別売上高及び営業利益 四半期別推移



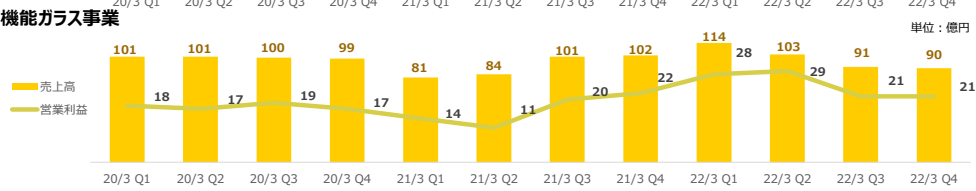
## 建築用ガス事業



## 自動車用ガス事業



## 高機能ガス事業



2022年5月12日 | 2022年3月期通期決算報告

# セグメント情報



(億円)	2020年3月期					2021年3月期					2022年3月期				
	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期	累計	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期	累計	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期	累計
売上高: 建築用ガラス	599	598	604	536	2,337	449	542	570	594	2,155	645	675	748	750	2,818
欧州	232	221	210	208	871	160	222	224	246	852	278	271	293	318	1,160
アジア	224	246	247	197	914	192	186	205	189	772	193	210	245	215	862
米州	143	131	147	131	552	97	134	141	159	531	174	194	210	216	795
営業利益	57	41	42	33	173	27	46	42	41	157	61	75	68	77	281
COVID後営業利益*	-	-	-	27	167	△ 22	41	38	34	91	-	-	-	-	-
売上高: 自動車用ガラス	768	714	664	664	2,810	387	666	683	716	2,452	709	643	681	730	2,762
欧州	335	294	278	291	1,198	166	267	288	315	1,036	312	279	273	303	1,167
アジア	174	172	165	160	671	99	159	176	172	606	151	129	164	160	604
米州	259	248	221	213	941	122	240	219	229	810	246	236	244	266	992
営業利益	40	12	1	8	61	△ 29	5	13	29	18	13	△ 23	△ 49	△ 20	△ 79
COVID後営業利益*	-	-	-	△ 6	47	△ 93	△ 6	4	17	△ 78	-	-	-	-	-
売上高: 高機能ガラス	101	101	100	99	401	81	84	101	102	368	114	103	91	90	398
欧州	17	18	16	20	71	13	14	19	18	64	21	18	20	20	79
アジア	80	79	81	77	317	65	68	79	81	293	90	82	68	66	306
米州	4	4	3	2	13	3	2	3	3	11	3	3	3	4	13
営業利益	18	17	19	17	71	14	11	20	22	67	28	29	21	21	99
COVID後営業利益*	-	-	-	16	70	12	10	21	22	65	-	-	-	-	-
売上高: その他	3	2	4	5	14	2	4	5	6	17	9	8	3	7	27
営業利益	△ 27	△ 9	△ 31	△ 26	△ 93	△ 18	△ 24	△ 27	△ 42	△ 111	△ 31	△ 25	△ 22	△ 24	△ 101
COVID後営業利益*	-	-	-	△ 27	△ 94	△ 18	△ 20	△ 27	△ 43	△ 108	-	-	-	-	-
売上高: 合計	1,471	1,415	1,372	1,304	5,562	919	1,297	1,358	1,419	4,992	1,477	1,430	1,523	1,576	6,006
営業利益	88	61	31	32	212	△ 6	38	48	51	131	72	55	18	55	200
COVID後営業利益*	-	-	-	10	190	△ 121	25	36	30	△ 30	-	-	-	-	-

2022年5月12日 | 2022年3月期通期決算報告

\*COVID-19関連個別開示項目後営業利益

35

## 個別開示項目

(億円)	2021年3月期	2022年3月期	
	通期 (累計)	1-3月期 (3か月)	通期 (累計)
<b>新型コロナウイルス感染症(COVID-19)関連*</b>	△ 161	-	-
政府支援による収益	26	-	-
設備休止等に係る費用	△ 187	-	-
<b>リストラクチャリング費用</b>	△ 147	△ 6	△ 7
<b>固定資産等の減損損失/減損損失戻入益</b>	△ 13	1	1
<b>固定資産等の売却による利益</b>	71	-	-
<b>事業の譲渡による利益</b>	-	-	44
<b>係争案件の解決に係る収益</b>	34	-	-
<b>子会社及びジョイントベンチャーの売却による利益</b>	1	-	-
<b>新型コロナウイルス感染症(COVID-19)関連 政府支援による収益</b>	-	-	4
<b>その他</b>	△ 5	△ 3	△ 6
<b>個別開示項目 純額</b>	△ 220	△ 7	36

\* 2021/3期は、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）のまん延により影響を受ける直接費と回収不能な事業運営コスト、及びそれに関連して政府により支給される補助金を個別開示項目として計上。これらにはCOVID-19により生産活動に従事できない従業員への給与支払や休止設備の維持費用、施設の安全な作業環境整備のために生じた清掃費用などの直接費用を含む。

2022年5月12日 | 2022年3月期通期決算報告

36

## 地域別売上高及び営業利益



(億円)	2021年3月期 通期			2022年3月期 通期			増減	
	売上高	%	営業利益 (△損失)	売上高	%	営業利益 (△損失)	売上高	営業利益 (△損失)
欧州	1,952	39%	53	2,406	40%	△ 8	454	△ 60
アジア	1,671	33%	128	1,772	30%	204	100	77
米州	1,352	27%	61	1,800	30%	105	448	43
その他 *	17	0%	△ 111	27	0%	△ 101	10	10
<b>合計</b>	<b>4,992</b>	<b>100%</b>	<b>131</b>	<b>6,006</b>	<b>100%</b>	<b>200</b>	<b>1,013</b>	<b>69</b>

\* 「その他」セグメントの売上高、営業利益は地域別に区分していない。



# 為替レート・為替感応度



## 期中平均レート

	2020年 3月期				2021年 3月期				2022年 3月期				2023年 3月期
	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3	Q4	見直し
英ポンド	141	137	138	138	133	135	136	139	153	152	153	153	157
ユーロ	124	121	121	121	118	121	123	124	132	131	131	130	133
米ドル	109	109	109	109	107	106	106	106	109	109	112	112	114
ブラジル・レアル	28.0	27.6	27.2	26.4	19.9	19.8	19.7	19.7	20.6	20.8	20.7	21.0	20.0
アルゼンチン・ペソ	4.70	超インフレ会計の適用により、期末レートのみ使用											

## 期末レート

	2020年 3月期				2021年 3月期				2022年 3月期			
	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3	Q4
英ポンド	137	133	144	133	132	135	141	152	153	150	156	160
ユーロ	123	118	122	119	121	124	127	130	132	129	131	136
米ドル	108	108	109	108	107	105	103	111	111	112	116	122
ブラジル・レアル	28.3	26.0	27.1	20.8	19.9	18.7	19.8	19.1	22.3	20.6	20.4	25.5
アルゼンチン・ペソ	2.53	1.88	1.82	1.68	1.53	1.38	1.22	1.20	1.16	1.13	1.12	1.10

## 為替感応度

他の前提に変動がない条件で、  
為替レートが他の通貨に対して  
1%円安になった場合の影響額

	2022年 3月期
資本	40.0億円の増加
当期利益	1.0億円の改善

## 減価償却費・資本的支出・研究開発費



(億円)	2021年3月期 通期	2022年3月期 通期	2023年3月期 見通し
<b>減価償却費</b>	<b>358</b>	<b>367</b>	<b>390</b>
<b>資本的支出</b>	<b>433</b>	<b>286</b>	<b>400</b>
通常投資	190	40	
戦略投資、他	243	246	
<b>研究開発費</b>	<b>83</b>	<b>77</b>	<b>95</b>
建築用ガラス事業	23	24	
自動車用ガラス事業	23	23	
高機能ガラス事業	9	9	
その他	28	22	

## 2021年11月～2022年4月 主なニュースリリース

(<https://www.nsg.co.jp/ja-jp/media>)



2021年11月11日	TCFD（気候関連財務情報開示タスクフォース）提言への賛同を表明
2021年11月25日	三井住友銀行の「ESG/SDGs評価」に基づくコミットメントライン・シンジケーションで最上位評価の取得
2021年11月30日	マシンビジョン向けSELFOC® Lens Array「SLA 5AG」の開発に成功
2022年1月14日	ポーランドにおけるガラスメーカーとして初めて再生可能エネルギーによる電力購入契約（PPA）を締結
2022年1月21日	抗菌・抗ウイルスガラス「NSG Purity™」を京都府舞鶴市の医療機関及び神奈川県相模原市のテレワーク施設等へ寄贈
2022年2月2日	高弾性・高強度ガラスファイバー「MAGNAVI®」を新開発
2022年2月28日	CDP2021「サプライヤー・エンゲージメント評価」において最高評価「サプライヤー・エンゲージメント・リーダー」に選定
2022年3月8日	IWD（国際女性デー）に寄せて楠瀬玲子NSGグループ インクルージョン&ダイバーシティ（I&D）ステアリングコミッティー議長からのメッセージ
2022年3月11日	「健康経営優良法人2022（大規模法人部門）」に認定
2022年4月1日	作物の収穫量の最大化に寄与 温室向けガラス製品ブランド「NSG ポタニカル™」シリーズを立ち上げ
2022年4月14日	世界初、バイオ燃料を100%利用したフロートガラス製造実験に成功
2022年4月21日	ロシアにおける通商取引の停止について

# NSG

GROUP